

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 5月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500887
法人名	医療法人 社団 田口会
事業所名	グループホーム コアラ
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1 (電話) 0276-30-3011

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年3月24日

【情報提供票より】(22年 2月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	700 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 7日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慶仁会 城山病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員が同じ目線にたって意見を出し合い、理念に沿った支援を実現していこうという向上心が感じられるホームである。利用者それぞれの状況や要求に合った細やかな支援に心がけている。法人としてもプラズマクラスターをはじめ、利用者がより快適に過ごせる環境整備に力を入れている。また職員が意欲を持って業務に励めるよう給与面や職員の配置などの体制づくりをしている。地域に対しても積極的にボランティアを受け入れる体制を整え、近隣の住民や学校とも気軽に挨拶し合える関係作りに励んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は、職員全員で検討した。理念については21年度に改定し、地域との連携を含めた3つの柱を掲げた。介護計画に関しては、1か月ごとにモニタリングを行い、現状と計画について家族に説明しながら3か月ごとの見直しを行うようにした。重度化や終末期に向けた方針については、必要に応じて具体的に伝えてはいるが、利用開始当初にホームとしての方針を提示してはいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を理解するために職員全員で学習しながら取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月ごとに開催している。行政職員・民生委員の他に地域のふれあいサロンの参加者・複数の家族も加わり、外部評価の結果や地域行事の情報や意見交換等活発に交わされている。意見や要望・情報はホームの運営に活かすようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見が出しやすいよう、年2回は全家族が集まってもらえる行事を組んだり、意見箱を設置している。また家族の面会時には健康状態をはじめホームでの様子やホームからのお願いを直接伝えるようにしている。毎月発行している『コアラ新聞』には行事を中心に情報を提供している。家族からの意見には早急に対応するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入したり毎月開かれるふれあいサロンに参加することで地域との関わりも広がり、ホームの存在も理解されてきている。地域のボランティアの来所も増え、小学生や中学生との交流も行われている。ホームとしては、近隣住民が気軽に来所し行事等へも参加してもらえよう働き掛けたいと思っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成21年度に『信頼、安心、すべては利用者のため』という方針の下、3つの理念を掲げた。そのひとつに『地域との連携』を挙げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するため、1年ごと1カ月ごとの目標も掲げ、ミーティングや会議の際に振りかえりを行い、日々の取り組みに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの存在を理解してもらうよう地域との交流に努めている。自治会に加入したり、「コアラ新聞」を行政センターに置いてもらったり、ふれあいサロンに参加する中で地域のボランティアサークルが月に数回来所してくれるようになった。近隣住民や小・中学校の児童生徒ともあいさつをはじめ気軽に交流している。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は具体的改善に向け職員全員で検討した。自己評価は、職員にとって緊張感を持って業務を見直すきっかけとらえ、勉強の機会も含めみんなで取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している運営推進会議には、行政関係者や民生委員の他、ふれあいサロンに参加している地域住民も自主的に加わってくれる。家族には毎回案内を出しており、1～2家族が参加している。外部評価の結果をはじめ、様々な報告や地域行事の情報交換・意見交換などが活発に交わされホームも刺激を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは会議以外でもその都度関わりを持ち、必要な情報を教えてもらえる状況にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来援した際に、健康状態や日常生活の様子、ホームからのお願い等を直接伝えている。必要に応じて電話連絡をしている。また、内容やレイアウトも工夫された『コアラ新聞』を毎月発行している。家族へ必ずお知らせが届くように家族別ポケットが用意されている。	○	『コアラ新聞』の内容の充実と利用者別の欄も取り入れたいとのことであるが、食事のメニューや職員の紹介など家族が身近に感じる内容を取り入れてみてはどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議とは別に年に2回、全家族が集まる行事を持ち、意見交換ができるようにしている。さらに意見箱を設置し要望を出してもらえるよう呼び掛けている。だされた意見には早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職は、話し合いを持ちながら調整を行っている。利用者にダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院の協力も得ながら、法人内部の研修を実施している。また、外部研修としては、基礎研修・実践者研修・グループホーム協会の研修に交替で出席し、会議で報告して共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加しているが、今年度はホームの足場固めの時期ととらえ、レベルアップ研修には参加しなかった。	○	理念の一つである質の向上を目指すためにも、レベルアップ研修や自主的研修も取り入れ、現在検討中の課題を他のホームではどのように取り組んでいるのか参考にしてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には見学をしてもらい、一緒にお茶を飲みながら過ごしてもらうようにしている。また、ホーム側で訪問して職員と顔なじみの関係を作っておくこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『人生の先輩』である利用者からいろいろ教えてもらうという思いを大切に関係作りをするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、外や通りを眺めながら・散歩しながら、昔話をしたり、食べたい物ややってみようことを話してもらうようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	朝のミーティングの際に生活の様子や家族・本人の意見を申し送りして、情報を集中して介護計画に反映するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3カ月ごとにまたは必要に応じて見直しを行っている。1カ月ごとにはモニタリングも行い、計画を変更する際には家族に現状と計画について説明を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、医療機関の受診援助・外食や美容院等への外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれが希望する主治医に受診できるように支援している。協力病院とは常に連携をとりあっており、ホームのパンフレットも置かせてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合にはその都度家族と話し合い、今後どのように支援していくかを定めるようにしている。	○	利用開始の際に、重度化した場合のホームとしての指針を提示しておくことも検討していただきたい。そのうえで具体的な検討を家族や主治医など関係者とその都度行なってはどうか。
ホーム利用開始の際に					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや人権に配慮した支援をしているか念頭に置きながら、会議でも取り上げて気をつけるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事のペースなど、それぞれの動きに応じた支援をするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食卓を囲み、おしゃべりしながら楽しく食事をしている。お茶入れやテーブル拭き・下膳・食器洗いなど、できることをしてもらえよう見守り支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則火曜日・木曜日・土曜日が入浴日になっているが、気分や体調によっては入れないこともあるので、翌日に延ばしたり足浴をすすめるなど状況にあった入浴支援をしている。希望があれば毎日でも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の際の役割や洗濯たたみや雑巾縫い・野菜作りなど日常生活を通してリハビリを兼ね役割をしてもらっている。またレクリエーションとして懐かしい歌を歌ったりテレビを見ながら昔話を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけ、近所の住民や中学生とあいさつを交わしたり庭の野菜をいただいたりしている。季節ごとに外出行事で出かけたり外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかかっている。センサーを利用して人の出入りはわかるようになっているが、自由に出入りできるよう見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をもとに年2回昼間を想定した避難訓練を行っている。グループホームでの火災のニュースを受け、話し合いを持ち問題点の再確認を行い改善に向け具体的な方針を立てた。	○	業者と提携した設備も整いつつあるようだが、今後は夜間を想定した訓練も取り入れていただきたい。運営推進会議にも働きかけ、訓練に地域の協力もお願いしていくことを検討してみてもどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、バイタルチェックとともに一週間の経過が見られる表で管理している。状況に応じた支援ができるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には季節の作品や行事の写真が飾られており、広々とした庭をのんびりと眺めることもできる。廊下に置かれたベンチで気軽に会話も楽しめるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが過ごしやすいうように、家具やテレビ・冷蔵庫ややかん等思い思いのものを持ち込み居心地のよい居室となっている。		